

---

# 青空流星群

優音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青空流星群

### 【Nコード】

N3449Z

### 【作者名】

優音

### 【あらすじ】

幼なじみの物語です。

藍依、帝兔、裕磨の三人の視点から物語が動いて行きます。  
変わりたくない藍依、変わって行く帝兔と裕磨…。  
青春の淡い恋の物語です。

## プロローグ

「ねえ、星座ってなんだろう、星って何？光は？」

しし座流星群が満天の星空を泳ぐように流れて…。

そんな夜空の下、私は問いかけた。

「星は一つ一つに物語があって、その物語を一目でわかるように表したのが星座。」

光は

あれ？

光はなんだったつけ？

皆で天体観測をした日から、どんどん遠ざかって、ずっと続くはず

だった時間は色を変えた。

こんなんじゃないのだったのに。

もう戻れないのかな…。

(ジリリリリ…)

目覚ましの音で我に戻る。

今日も慌ただしい一日が始まる。

## プロローグ（後書き）

最初は短めです。

## 幼馴染み（前書き）

藍依視点から始まります。

## 幼馴染み

「藍依、お早う。」

私、こと南雲藍依は、華暉高校に通う一年生。  
最近悩んでいます。

「お早う帝兔。」

私に挨拶してきたのは幼馴染みの上遠野丘 帝兔。

「裕ちゃんは？朝練？」

「ここにいるよ。」

にっこり笑って手をふったのが、白石 裕磨。

私はちっちゃい頃から『裕ちゃん』って呼んでるけど…。  
裕ちゃんはもう嫌かな？

前までは帝兔も『みーくん』って呼んでたけど、もうそろそろ普通に呼べって言われちゃった。

「藍依、俺もそろそろ…。」

あ、やっぱり言われちゃった。

「裕ちゃんはやめて？」

「わかった…。」

やっぱり恥ずかしいのかな…。

そうだよな、高校生になってまでちゃん付けなんて恥ずかしいよね…。

「じゃあまたあとでな。」

クラスの前で帝兔と別れる。

私と裕ちゃ…裕磨はB組だけど、帝兔はD組だから。

A-Jまでクラスがあるわりには、離れなかった方だと思うけど…。  
それでもやっぱりクラスが離れちゃうのは悲しい。

「そうだ藍依、これ。」

裕磨が何か渡してくる。

「これ…いいの!？」

それは、この前三人でお店に入った時私が欲しがった猫の小さいぬいぐるみ。

「藍依、こればっか見てたから欲しいのかなって思ってたさ。」

女の子の欲しいものの把握できるなんて…きっとモテるよ裕磨!!

「ありがとう、大事にするね!!」

思わず抱きつきたくなったけど我慢我慢。

優しい裕磨はやっぱいろいろんな人からモテるから。

一回、彼女疑惑掛けられて大変だったし。

裕磨はフランス人とのハーフで、お母様譲りの綺麗な金髪に深い青の瞳を持つてる。

おまけに、お父様譲りの背の高さがあるからモテるモテる。

もう、ここまで言ったら美形なのは言わなくてもわかるよね。

「どうしたの？」

俺の顔、なんかついてる？」

「うん!!そんなんじゃないよ!!」

見とれて悪いかっ!!

このイケメンハーフ!!

「藍依、見てみて!!」

そう思ってたら後ろから声かけられましたよ。

「じゃあね裕磨。」

「うん。」

裕磨に手を振ると、声の主、滝本たきもとあかり 緋梨の方に駆けてきます。

「どうしたの緋梨。」

「いやあ、朝からお熱いね。」

私邪魔だったかな？」

ちよ、からかわないで下さいよ緋梨さん。

照れるじゃないですか…って違いますよ？

そんなじゃないです。

「そんなんじゃないよ。」  
「って言うか用件どうしたよ。」

心の中でツッコむけど、声には出しません。

だって用件そっちのけでコントになっちゃうからね！！

「あ、そうそう。」

今つぶやいたー見てただけで、こんなのが乗っててね。」

緋梨つぶやいたーやってるんか。

それはいいとして…え？

『帝兎君の好きな人発覚なう。』

って…。まあ揃いも揃ってうちの幼馴染みはモテるよ。

何でリアル充実してないんだか。

「でね、リンクに飛んでみたら、これ。」

『南雲藍依』って私じゃん！？

「緋梨、多分これいたずらか何かだと思うよ。うん。」

だってあり得ないもの。

まあ騒ぐには格好のシチュエーションだもんね、幼馴染みなんてさ。

「何の話？」

「あ、裕磨。これ。」

緋梨の携帯を見せると、裕磨は笑ってから私の方を見た。

「帝兎にURL送ってみようか。」

裕磨は悪戯好き。

こついうとこで乗ってくるから楽しいけど…。

たまに度を知らないから怖い。

「ん？」

携帯が鳴る。

相手は裕磨らしいけど…URL？

「なんだ、悪戯か。」

『俺に想い人なんていねーよwwww』と書き込む。  
まったく…人の恋愛話なんかして何が楽しいんだか。  
それにしてもよく気づいた…かな。  
ま、否定しとかなきゃ回りが回りだし。

…大体裕磨も裕磨だ。

いつまで友達のフリなんて続けてるんだか。

まあ、『彼奴が望むから』何て言ったら終わりだけど。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3449z/>

---

青空流星群

2011年12月11日21時51分発行